

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

交流スペースがオープンしました！

8月より、NICライブラリー内に新しく「交流スペース」がオープンしました。交流スペースは、国際交流、国際協力、多文化共生等の分野で活動する団体、ゼミやサークルなどの学生グループの集まりにご利用いただけます。この新しいスペースで、8月にふたつのイベントを行いました。今回はその様子をご紹介します！



◀情報掲示板で団体紹介や交流のための情報発信もできます。

絵本のひろば in Nagoya 2018

8月4日(土)、5日(日)

世界各国の絵本を自由に見て、映画や読み聞かせも楽しめる、毎年人気のイベントです。今年は映画「パディントン2」の上映や、英語・スペイン語など外国語の絵本の読み聞かせがありました。来場者は2日間で400名を超え、それぞれお気に入りの本を手にとり、楽しい時間を過ごしました。



若者が集い、世界とつながる場 グローバルユースCafe

8月22日(水)

デンマークでコーヒーを学んだTRUNK COFFEEのオーナー鈴木康夫さんをお迎えし、お話を聞きました。

参加した若者たちは真剣な表情でお話を聞き、後半は鈴木さんが淹れたコーヒーを味わいながら夢や将来について語り合いました。



問 広報情報課 ☎052-581-0100 ✉info@nic-nagoya.or.jp

交流スペースの利用について、詳しくはこちらをご覧ください▶



ぶらりライブラリー

特に目的があるわけではないけど、ぶらっと来てみたら、気になることに出合える場所。このコーナーでは毎回NICライブラリーのご紹介をします。
NICライブラリー 名古屋国際センタービル3階 9:00~19:00 月曜休館

「初めての声」

6,850万人。イギリスの人口とほぼ同じで、日本の人口の約半分。

この数字は現在の難民のおおよその数でもあります。毎日ニュースでたくさんの情報が流れ、それらはすぐに上書きされます。情報の受け手側で「難民がいる」状態が日常化し、無関心化につながっていると聞きます。彼らを「難民」というグループで捉え、「個人」として想像できないことも影響しているのかもしれない。

今回ご紹介するのは、自らの意思にかかわらず、異国の地で生きていかなければならない人々の姿を描いた本です。彼らは異文化の中で自分を見失い、居場所を見つけられずに悶々としながらも、周りの助けを借りて自分なりの生き方を見つけていきます。

これらの本を読むと、今まで一括りに「難民」や「外国人」としか見えなかった人々を、それぞれ人格を持つ「個人」として想像できるようになります。事実を客観的に捉えることも大切ですが、その人たちの気持ちに寄り添える距離まで近づいてみることは、人間にしかできないことです。

どの本にも共通しているのが、苦しい状況で最初に声をかけてもらったことへの喜びです。暗闇に一筋の光という感じ

でしょうか。グローバル化で人の移動が活発になり、「声」を待つ人が増えたのと同時に、「初めての声」の主になれるチャンスも増えました。私たちにできることは、まだまだありそうです。



上段左から
①「世界の難民子どもたち」シリーズ (アフガニスタン、イラン、エリトリア、ジンバブエ、ユーラシア)
②「ドコカ行き難民ボート。」
③「Masato」
④「さようなら、オレンジ」
⑤「マッドジャーマンズ」

クイズ Q. 昨年日本で難民申請をした人は何人でしょうか？

本があるのは... ①世界の絵本コーナー/②子どもの国際理解コーナー/③④⑤多文化共生コーナー

2018年10月11日 ニック・ニュース

国際留学生会館から

「留学生の地域交流—日本料理体験」
～おいしい料理を楽しくいただきました！～

Foi muito divertido
フイ ムイト チベルチード
楽しかったです！(ポルトガル語)

愛知県立大学日本文化学部交換留学生
ファビオ サルダーニャ(ブラジル出身)



7月7日、港生涯学習センターにて、おやじのわいわい料理同好会(以下「同好会」)*1と国際留学生会館(以下「ISC」)留学生との料理教室を通じての交流会が行われました。参加者のひとり、ブラジル出身のファビオさんに当日の様子やISCでの生活などについてお話を伺いました。

私が高校生の時、母国で仲良かった友人の一人が日系人で、彼から日本語や日本の習慣などについて教わりました。それがきっかけで日本について興味を持ち、大学でも日本語を専攻していました。日本語を学ぶうち、実際に日本で生活し風俗習慣なども体験したいと考え、現在の大学に交換留学をしています。



▲料理を教わるファビオさん(中央)

ISCでの生活はとても快適かつ安心です。困ったことがあれば、チューター*2などがサポートしてくれますし、イベントも多いため、他の国の学生とも友達になりました。

7月7日の料理教室では、日本の家庭料理である肉じ

ゃが、だし巻き玉子などを作りました。もともと料理が好きでよく自炊をしますが、日本の家庭料理を作るのは初めてでした。同好会の人たちはとても優しく、作り方を丁寧に説明してくれました。聞いても分からないことはもう一度質問したりしましたが、皆さんは嫌な顔ひとつせず、何度も教えてくれましたので、上手に作る事ができて、とても感謝しています。

みんなで一緒においしいものを作ったり、食べたりすると、雰囲気も和やかになり、他の留学生や同好会の皆さんとも打ち解ける事ができて、とても思い出深い一日となりました。



▲参加者全員の記念写真

▲当日のメニュー

*1 毎月1回、港生涯学習センターにて男性だけで料理を作りながら交流するグループ。2009年から活動開始。2018年4月現在27名が参加。
*2 留学生の日常生活について助言したり、ISCの事業や運営に協力する学生。

国際留学生会館とは... NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

シリーズ グローバルに活躍する若者たち

NIC Global Youth Award 2017 奨励賞受賞団体によるメッセージ

今回は、「NIC Global Youth Award 2017」において奨励賞を受賞した「名古屋市立名東高等学校 名古屋城英語ボランティアガイド」と「TABEBORA」の皆さんからのメッセージです。

名古屋市立名東高等学校 名古屋城英語ボランティアガイド

外国人観光客が増えているなかで、高校生が主体となり、「名古屋城」を外国語でガイドする取り組みを行っています。ガイドをする時には、写真や絵を貼ったスケッチブックやiPadの動画を見せて説明するなど、たくさんの工夫をしており、大好評です。この活動を通して、私たち自身がこの地域の歴史や文化についての理解を深め、発信できるようになりました。8月までの約3年半で15か国203名の方を案内しており、韓国語や中国語でのガイドを行う生徒も出てきています。名古屋は魅力がないと言われることがありますが、そうは思いません。地域の人々が誇る名古屋の魅力伝えていきたいです。



▲自作のスケッチブックを用いてガイド

TABEBORA

「みんなに気軽に、楽しく、そしておいしく、フェアトレード(以下「FT」)を知ってもらいたい」。この思いのもとに、浜松駅の地下広場で大学生の有志がカフェを運営しています。TABEBORAとは「食べる×ボランティア」の略称です。海外の生産者と顔の見える関係を作りながら継続的にFT商品を仕入れ、カフェのお客様との対話を通してFTの周知・啓発を図っています。また、国内のFTにも目を向け、産地産品のメニューを提供しています。思いや生産過程など「生産者のストーリー」をお客様に伝え愛着を持ってもらい、FTが「あたりまえ」になることを目標に、今後も活動を続けていきたいと思っています。



▲人が集まる浜松駅の地下広場に出店

*「国際交流・国際協力・多文化共生」などの分野で活躍している若者の団体を表彰し、活動をサポートするNICのプロジェクトです。NIC Global Youth Award 2017の様子は、こちらの動画をご覧ください▶

